

令和4年度

追跡評価結果

令和4年7月

広島県立総合技術研究所

目 次

1 評価対象及び評価基準	
(1) 評価の対象	1
(2) 評価基準	1
2 評価結果	
(1) 評価結果一覧	3
(2) 評価概要	3

1 評価対象及び評価基準

県立総合技術研究所の重点研究課題（開発研究）について、「広島県研究課題評価マニュアル」に基づき追跡評価を実施し、その結果を取りまとめた。

課題解決のアウトプットの目標達成度及び研究課題の企画・実行等の内容について評価し、改善点等を検証し、その結果を総研の事業計画に反映させる。

実施の時期は、課題解決の支援の実施状況等に応じ、事後評価実施年度の翌年度からの3年間のうちに1回行うこととする。

(1) 評価の対象

平成30年度に終了した重点研究課題（開発研究） 2課題

(2) 評価基準

(ア) 個別評価基準

個別評価は、次の基準に従って、各センターの自己評価として行う。

① 成果移転の目標達成度

企業、農家、行政事業等への移転状況について、次のとおり評価する。

A：目標を上回っている。

B：ほぼ目標どおり達成している。

C：移転は行っているが、目標を下回っている。

D：移転は進んでいない。

② アウトカムの目標達成度

研究予算総額に対する事業効果の大きさを比較し、次に掲げる目安により区分けすることとする。県民生活上の事業効果を販売額などの数値で表せない場合は、研究予算総額に対して効果があるかどうかで評価する。

A：目標を上回っている。（見込を含む。）

B：ほぼ目標どおり達成している。（見込を含む。）

C：目標を下回っている。（見込を含む。）

③ 知的財産権等の活用状況

実施許諾の有無と、実施許諾している場合は事業化（生産）まで進んでいるかについて、次のとおり評価する。

A：実施許諾し、事業化されている。

B：実施許諾を行っている。

C：知財化（出願等）を行っている。

D：知財化（出願等）を行っていない。

(イ) 総合判定基準

広島県立総合技術研究所における運営会議にて、個別評価をもとに、次のとおり総合的に評価を行う。

- S：成果移転，アウトカムいずれも，目標を上回っている。
- A：成果移転，アウトカムいずれも，目標をやや上回っている。
- B：成果移転，アウトカムいずれも，ほぼ目標どおりである。
- C：成果移転，アウトカムいずれも，目標をやや下回っている。
- D：成果移転が進んでおらず，アウトカムはない。

2 評価結果

(1) 評価結果一覧

評価結果一覧

番号	研究課題名	センター	個別評価			総合評価結果
			成果移転の目標達成度	アウトカムの目標達成度	知的財産権等の活用状況	
1	高強度アルミニウムボルトの塑性加工プロセスと組織制御技術の開発	西部	C	C	C	D
2	熱パラメータ取得技術の開発	西部	C	C	C	D

《センター名》西部：西部工業技術センター

(2) 評価概要

1) 総合評価方法について

総合評価に当たっては、「成果移転の目標達成度」、「アウトカムの目標達成度」の2項目の個別評価結果を基に総合的に判定した。

2) 結果概要について

研究課題「高強度アルミニウムボルトの塑性加工プロセスと組織制御技術の開発」では、企業への技術移転はできているが、アウトカムが目標を下回り、総合評価は D 評価であった。研究課題「熱パラメータ取得技術の開発」では、環境変化の影響もあり、成果移転及びアウトカムは目標を下回り、総合評価は D 評価であった。